

ぬくもり

発行元 可児市人権啓発センター
可児市下恵土5166-1
(可児市総合会館分室内)
電話 (0574) 63-7990
FAX (0574) 63-7990

＝可児市人権啓発センターだより＝



自然に親しむ桜ヶ丘小学校3年生

浅間山のゴミひろい

桜ヶ丘小学校三年生 緒方 万莉

今日、花いっぱい運動にお父さんと参加しました。お父さんは集会所の周り、私は友達の鶴田君と浅間山のゴミ拾いをする事になりました。道具は軍手と火ばさみ。

二人で可児市の袋を一枚持って、山に登り始めました。山道には、空きカンやかしの袋などが、落ちていました。

「いっぱいあるね。」
「そうだね。」

私たちは、ゴミを拾って歩きました。すると、小川にたまった草の下に、カンがうまっていた。私が火ばさみで取ろうとしても、なかなか引きぬけません。

鶴田君が「ちょっとかして。」と言って手伝ってくれました。ゴボツ。



「何、これ。」

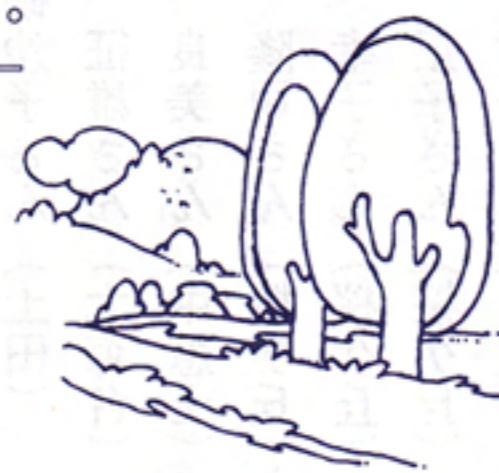
「カセットコンロのボンベや」

こんな物まで落ちていた。山を下りてびっくりしました。山を下りるころには、袋の半分ほどのゴミがたまりました。

私は、何で外に空きカンや紙ビニール袋など捨てるのかなと思いました。

キャンプなどで出たゴミは、一つ残らず持ち帰ってほしいと思いました。

集会所へもどると、お父さんが、「いっぱい拾ったね。」とほめてくれました。もらったジュースが、おいしかったです。



子どもたちのよさを 引き出す場づくりを

広陵中教頭 加木屋 三貴雄

広陵中学校区では、平成十年
度から三年間、「道徳的実践活
動推進事業」の文部省指定を受
け、地域ぐるみで子どもを心
育てる実践活動の推進を行って
います。学校はもとより、家庭
では「一家庭一実践を」地域で
は「地域行事で子どもたちが役
割参加できる場づくりを」を合
言葉に取り組んでいます。豊か
な体験活動を通して思いやりの
心や主体的な実践力の育成を願っ
ています。

そんな実践活動の一部を紹介
したいと思います。
広陵中学校では、昨年、初め
て春里苑を訪問させて頂きまし
た。吹奏楽部と選択音楽部の発
表を聞いてもらうことが中心で
したが、ボランティアの参加を
呼びかけたところ、二十名程の
希望がありました。中には二度
目という子もありましたが、ほ
とんどは初めての体験でした。
おやつ時間の介助体験をさせ

て頂きましたが、痴呆症のお年
寄りの口を拭いてあげたり、お
やつを口に運んであげたり、話
を一生懸命聞いてあげたりして
いる生徒の姿を見て感動しまし
た。

また、今年、学校において可
児市の花いっぱい運動に先駆け、
校内花いっぱい活動を行いまし
た。マリーゴールドやサルビア
の花を全校生徒の手で植え校内
を美しくしました。

こうした活動を通して、植物
や自然に対する心や愛校心を育
むことがねらいですが、そんな
中で本当に花を愛し親身になっ
て活動する子がいます。この活
動以後も、主体的に花の世話を
してくれています。

また、今年、帷子
地区の公民館祭りに
おいては、自治会や
青少年育成会議、公
民館の皆さんの計らいで、ごみ
箱づくりやゲームの手伝いなど
役割参加の機会を与えて頂きま
した。これも二十名程の参加希
望があり、公民館の運営の一端



を担うことができました。

今の子どもについていろいろ
な問題点が指摘されていますが
これらいきいきと活動する子ど
もの姿を見ていて、決してそう
ではないと思えました。一人一
人の興味関心や能力はさまざま
です。そういった個々のよさを
うんと発揮させてやるために、
学校や家庭・地域社会の大人が
子どもたち個々のよさを引き出
してやる努力や援助をしていか
なければならぬと思います。

本年度の 第一回啓発推進員会開催

去る五月十四日、可児市総合
会館分室で、可児市人権啓発推
進員会が開催されました。



第一回推進員会で熱心に話し
合われる推進員のみなさん

昨年度にスタートした推進員
会は、地道な活動を通して徐々
に浸透してきています。ちなみ
に昨年度の活動事例を列記する
と★ぬくもり講演会（11/15）
や人権週間中の街頭啓発活動（12
/4）★ぬくもり懇話会（1/
22）等々への参加★年度末には
年間の活動ぶりがケーブルテレ
ビ可児で放映されました。
今回の会では、事業の重点目
標である「推進員会の充実」が
確認され、今後一層の活動が期
待されます。

●今、ご活躍中の 推進員のみなさん

- 白石 砂子さん（土田）
- 山口 征雄さん（大森台）
- 小森 良美さん（中恵土）
- 今井 隆司さん（桜ヶ丘）
- 畑 幸子さん（桜ヶ丘）
- 鈴木 正子さん（桜ヶ丘）
- 長尾 雅子さん（今渡）
- 内藤 登代子さん（若葉台）
- 星野 広典さん（久々利）
- 渡辺 町子さん（下恵土）

以上10名

その一言で

市主任児童委員

野村照代

その一言で

やる気も起こし励まされ

夢を持ち嬉しくなり

立ち上がる。

その一言で

腹が立ち泣かされる。

ほんのちよつとの一言で

不思議と大きな力を持つ

ほんのちよつとの一言で。

つい忘れがちですが、いつも

心に留めておきたい私の好きな

言葉です。

昨年、私の誕生日に実家の母から電話がありました。

「お爺さんがね、今日は照代の誕生日だから電話をしろと喧しく言うの。おめでとう。」と言うのです。思わず「お陰様で苦労させてもらっています。」と返事をしました。

「私たちは、貴女のお陰で幸せさせてもらっているよ。」と言うのです。「嘘、冗談だよ。ありがとう。」と言って電話を

切りました。日々の生活に追われ、ゆとりがなかったから思わず母の電話にそう返事をしてしまったのです。

私がいくつになっても優しい言葉をかけてくれる両親のその一言に胸が熱くなりました。

私には三人の子どもがおります。長男（社会人）、次男（学生）、長女（学生）ですが、子どもに対する考え方は「子どもは自分から望んで生まれたのではない。たまたま、私たち夫婦の間に一番最初に生まれたのが男の子だったというだけの事、二人目も男の子、そして娘も三人目の女の子だっただけの事。だから、どの子も同じ条件で本人が希望する進路へ進めばいい。

人様に迷惑をかけないで、自分の人生は自分で考え、決め、途中で苦勞をしても納得がいく人生を歩んでほしい。

「外へ出せば帰らないよ。」

「一人娘なのに寂しくないの」と言われますが、一度しかない人生、明るい顔で生活している姿を見せてくれるのが親孝行だと思います。

進学も就職も三人とも家から遠く離れて生活しておりますが離れたからこそ一人ずつの長所がはつきりと見えてきました。

今年、一番早い生まれ月の娘に「誕生日おめでとう。お母さんの娘に生まれてくれてありがとう。」と電話をしました。娘は「生んでくれてありがとう。」

と答えてくれました。本当にその一言なんですよね。周りの人達から受けた喜びを、少しずつでも、一言だけでもお返しをしていきたい思っております。



お願い

「ぬくもり」を通して人権の和を広げたいと思います。皆さんからのお便りをお待ちしています。
〒509-0203 市内下恵土
可児市人権啓発センター
事務局

ミニ・ミニ情報

★今年、国連が定めた「国際高齢者年」です。国連の五原則によると高齢者の「自立」「参加」「ケア」「自己実現」「尊厳」をあげています。高齢社会の具体的、継続的な対応もさることながら、高齢者自身の自立と相互扶助の輪を広げることが大切ではないでしょうか。

★平成八年十二月に「男女共同参画2000年プラン」が策定されましたが、現実には社会通念や因習、慣習などまだまだ女性に対する偏見や固定観念が残っているようです。見直さなければならぬ課題が山積しています。

★21世紀は「人権の世紀」といわれます。考えてみると人権は人間が人間らしく生きるための大黒柱です。言ってみれば、「人権」は骨みたいなものですね。



ニュース・トピックス

「孤立無援」の母親が危ない!

子どもを虐待 10人に1人
この記事を読んで改めて幼子の生命について考えさせられました。

親か養育者が、発育に必要なケアを怠ったり、身体的或は性的虐待を加えたりする親としてあつてはならない幼子への暴力が続発しています。

1997年全国児童相談所の家庭内虐待調査によると、97年度の1年間で5、352件に達しているという。無論、この数字は氷山の一角でしょう。



更に、この現象を「虐待の世帯連鎖」という表現をしている新聞もありました。つまり、愛

情面で自分の母親との絆が弱かった母親ほど虐待に走る傾向があるというのです。

人類にとって尊い財産である人の生命(少々オーバーな表現になりましたが)を守るために、私たちは、身近なところで温かい人間関係をつくりだす気配りをしておくことが大切であると考えます。



子どもの権利条約 リーフレットってご在じ?

市内の学校で使われている子どもの権利と義務にかかわる学習リーフレットです。子どもたち一人が、与えられた権利を正しく行使できるために学校は無論のこと家庭での助言が大切です。子どもの目線でリーフレットを読んでみてはいかがでしょう。

見えない目



なにげない その一言で

あの子が

みんなが大声で笑っている

あの子が大粒の涙を

こらえている

悲しいからなのだろう

その一言を言われた

自分の心と

その一言が言えてしまう

他人の心を

悲しんでいるからなのだろう

なにげない その態度で

あの子を傷つけた

みんなが大声で笑っている

あの子の瞳から大粒の涙が一滴

苦しいからなのだろう

その態度に何も言えずにいる

自分の心と

その態度に何も言えない

みんなの心で

苦しんでいるからなのだろう

いつになると知るだろう

あの子の苦しみを

編集後記

それはきつと
自分が同じ立場になったとき
そしてきつと
あの子の大切さが
わかったとき
この詩は「人権シリーズ・学習資料No.22 岐阜県教育委員会編」に載ったものです

- ▽昨年度の暮れにケーブルテレビでセンターの活動を放送しましたら、多くの方からご声援をいただき、啓発の大切さを改めて強く感じました。
- ▽相手を慈しむ気持ち、思い遣る心の大切さという言葉はよく耳にします。ほんのちょっとした気配りに出会ったときホットな気持ちになりませんか。
- ▽センターにも新年度がやってきました。皆さんからのご意見などお聞かせ下さい。啓発に役立てたいと考えています。